

日本生活科・総合的学習教育学会 第2次案内 第33回 全国大会 新潟大会

大会テーマ

一人一人が響き合い、学び、
共に創り出す「くらし・社会・未来」

大会期日

令和6年6月22日(土)・23日(日)

メッセージ

幕末の安政5年(1859年)に、五か国条約により開港5港の一つに指定されたのが、ここ新潟です。日本生活科・総合的学習教育学会の第33回全国大会が、160年以上前に新しい時代の幕が上がった新潟で開催されることは、本当に光栄なことです。新潟大会の主題は「一人一人が響き合い、学び、共に創り出す『くらし・社会・未来』」です。この大会でも、新潟から全国へ、次の時代を見据えた、未来につながる提案をしていくつもりです。

今日的な課題は「個別最適な学び」と「協働的な学び」との一体的な充実です。これまでも「個の学び」と「集団の学び」の相互作用を重視してきました。しかし、協働性を求めていくあまり一人一人が並列化し、集団の中で個が埋没してしまう。そして考え方や追究の仕方、感じ方や個性までもが統一化されていくような、画一的・同調主義的な学びの風土を感じる場面はなかったでしょうか。

そこでまず、私たちは、多様な子どもが自律的に学び、人と違う興味や特性が肯定される中で、一人一人の可能性、考え方の違いや良さが生かされることを基盤とすることを考えました。さらに、異なる考え方が組み合わせたり、新しい気付きや最適解、納得解を創り出す姿を目指しています。個が生き、その一つ一つの強い個が響き合った時、その集団は大きく成長し、子どもたちの学びは確実に深まるはずで。

「個が生き、その一つ一つの強い個が響き合う姿」を考えることで、生活科、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実はどうあれば良いかを、改めて問い直すことができると考えています。

生活・総合の未来を描く大きなうねりを、この日本海を望む新潟の地から、皆さまとともに創り上げたいと考えています。ぜひ多くの皆さまのお越しをお待ちしています。

日程・会場

【第1日目 6月22日(土)】

8:30 9:00 10:00 11:30 12:00 13:00 14:40 15:10 16:50 17:00 17:50 18:00 18:30

受付	公開授業 高校実践発表 協議会	授業研究 発表	移動	理事会 昼食	自由研究 発表	移動	課題別 研究発表	移動	総会	移動	受付	懇親会
<会場> 新潟市立沼垂幼稚園 新潟市立新潟小学校 新潟大学附属新潟小学校・ 新潟中学校			<会場> ・理事会:新潟青陵大学 ・自由研究発表・昼食会場: 新潟青陵大、附属新潟小・附属新潟中 ・課題別研究発表:新潟青陵大学				<会場> 新潟青陵大学		<会場> ANA クラウン プラザホテル 新潟			

※公開授業の開始時刻は、各校によって異なります。詳細は最終案内をご確認ください。

※各会場間の移動には、無料チャーターバスをご利用ください。なお、駐車場として附属小のグラウンドを利用可能です。

【第2日目 6月23日(日)】 <会場> ANA クラウンプラザホテル新潟

8:40 9:30 9:45 10:00 12:00 12:15

地域世話人会	受付	全体会		
		開会行事	シンポジウム	閉会行事



大会情報はここから ↑

【大会参加費】

事前申込のみです。 当日の参加申し込みはできません。
一般 4,000円 学生 3,000円 懇親会 7,000円
☆ 4月下旬以降、大会 HP からお申し込みください。

自由研究発表

会場：新潟青陵大学、新潟大学附属新潟小・中学校

自由研究発表の申込みは、令和6(2024)年2月29日(木)まで(締切厳守)です。
要項は、大会 HP をご参照ください。自由研究発表の申込みフォームは、こちらです。→



課題別研究発表

会場：新潟青陵大学

分科会	学校園種	テーマ
1	小	【ICT活用による探究の充実】 ●一人一台第端末が整備された今、どのようにICTを活用することで、探究的な学習は深まるのか。
2	幼・小生活	【幼保小架け橋プログラムの開発・実践】 ●全国的な架け橋期の教育の充実に向けて、自治体の方針や学校園の実態に合わせた架け橋期のカリキュラムをどのように具現化するか。
3	小生活	【生活科における学びに向かう力等の評価】 ●生活科ならではの子どもたちの多様性に寄り添うために、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの視点をどのように見取り評価するか。
4	小生活・小中 総合・他教科	【カリキュラム・マネジメントの実践の成果と課題】 ●カリキュラム・マネジメントの成果や課題は、どのように評価できるか。
5	小生活・小中 高総合	【チームでつくる生活科・総合】 ●カリキュラムリーダー(研究主任や管理職)はどのように学校全体に探究の教育文化をつくり、広めていくか。
6	高	【高等学校における地域と共に創る探究】 ●高度化・自律化する探究の学びを支える地域と学校の体制をいかに構築するか。
7	小生活・小中 高総合	【開催地枠】 ●生活科や総合的な学習(探究)の時間における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように捉えるか。

シンポジウム

テーマ

「生活科や総合的な学習(探究)の時間における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように捉えるか」

主催：日本生活科・総合的学習教育学会

後援(予定)：文部科学省、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、新潟市教育委員会、新潟県・新潟市小学校教育研究会、新潟県中学校教育研究会、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、新潟県幼稚園・こども園連盟、新潟県保育連盟、新潟日報社

問合せ：大会事務局 新潟青陵大学 中野 啓明 niigata.seikatu.sougou@gmail.com

☆今後の感染症や社会状況等の変化により、実施方法や時間に変更がある場合もあります。